

作者	瀬尾まいこ
登場人物	僕（明夫）・ばあちゃん・川口君・山崎君 ・同じクラスのみんな
僕の状況（あらすじ）	小学校卒業と同時にばあちゃんの家同居している。「父さんの仕事の都合」で三回目の転校。中学校での友達作りがうまくいかず、僕の気持ちはもやもやして、晴れない。
情景描写	周囲の様子や情景は登場人物の心情を表していることがある。
F 僕の気持ちを表した情景（2）	①晴れることを放棄したようなぼやけた空 ②最近続いているぼんやりとした花曇り
様子や状態を表す言葉	擬態語 （ぼそぼそ・ぼそりと・ばかりと・ぼりと ・するりと）
F 花曇り	桜の咲く四月ごろの、ぼんやり曇ったような空や天気のこと。
空気を持て余す	どうしたらよいか分からない。 「持て余す」…取り扱いに困ること
放棄	投げ捨てること。自分の役割・権利・資格などを捨てて、行使しないこと。
やり過ぎ	なすがままにさせる。関わりを持たないですませる。
この期におよんで	今となっては遅すぎるという気持ちを表す言い回し。類義語…今さら・今ごろになって など
「僕」の状況が好転するようなきっかけ	野外学習用に向けてお菓子を買いに行く場面
F 「でも、僕が手に提げた小さなふくろの中にはあまずっぱい梅干しがちゃんと入っている。」での僕の気持ち	川口くんとうまく話すことができ、今後は友達と楽しく過ごせたらと期待している気持ち。
F 僕の気持ちの変化	不安→期待・希望
F 僕の気持ちが変わっていることが分かる表現（2）	①すっぱい梅干し→あまずっぱい梅干し ②晴れることを放棄したようなぼやけた空 →最近続いているぼんやりとした花曇り

自分のランクと、それより下のランクのもの全部